

『沖繩県史 沖繩戦』

標題の沖繩県史が、2017年3月10日に発行された。翁長雄志・沖繩県知事「発刊のことば」から。

今年は、沖繩戦から72年目を迎えます。沖繩戦を経験した方々の高齢化により、沖繩戦を自らの体験として語ることのできる方も少なくなりました。今後、沖繩戦の体験を次の世代へと伝える取り組みが、ますます重要となってきます。

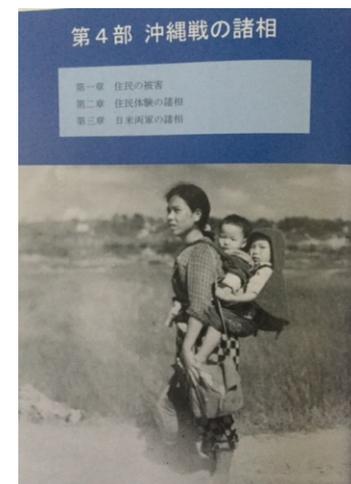
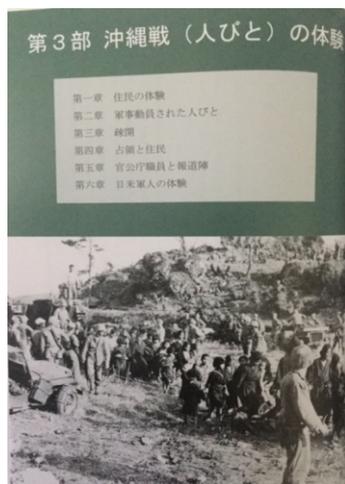
沖繩県においては、1971年から74年にかけて『沖繩懸史 第八巻 沖繩戦通史』、『同 第九巻 沖繩戦記録1』、『同 第十巻 沖繩戦記録2』を発刊し、それまでほとんど取り上げられることのなかった住民の証言を中心に据えて沖繩戦の体験を明らかにしました。その後、各市町村史等においても、住民証言の聞き取り調査が行われ、地域における沖繩戦の実相が明らかになってきました。沖繩県でもその後、収集した日本軍及び米軍資料をまとめて『沖繩県史 資料編 23 沖繩戦日本軍史料』などの『資料編』を発刊しました。これらにより沖繩戦研究は飛躍的に進展してきました。

このような沖繩戦研究の蓄積と、地域史の取組の成果をふまえ、『沖繩県史 各論編 6 沖繩戦』は、住民にとって沖繩戦が何であったのかを描き、さらにこれらの沖繩戦体験の継承のあり方についても述べています。

本書は、沖繩戦を理解し、悲惨な体験をしっかりと受けとめ、次の世代に継承していくための指針となることを目的としています。本書が今後の沖繩戦及び沖繩県の歴史のさらなる研究の進展に寄与するとともに、平和の創造への一助となることを期待します。

本書は第1部 沖繩戦への道、写真のような第2部から第4部、第5部 沖繩戦の戦後処理と記憶・継承で構成されている。

約800ページにおよぶ本書は、沖繩戦をめぐる経過と諸相、人びとの体験と記憶・継承などの貴重な史料である。沖繩戦という悲惨な歴史から、沖繩の現実を学んでいきたい。



(2017年10月5日)